

掲示伝道

山門前に伝道掲示板を設置して18年になります。

道行く人に少しでもお念仏の教えを知ってもらいたいという思いで始めた伝道掲示ですが、時折、メモしている人を見かけたり、或いは「勉強になります」、「励まされます」と言われることもあり、そんな時は「掲示板を設置してよかったなー」と、大変嬉しく思っております。

掲示伝道では次のようなこともありました。

それは今から6年前のことです。

イギリス人を夫に持つ知人の娘さんから、次のような長文のメールを頂きました。

……3年ほど前に、父と私の夫（ナイジェル）と共に光明寺さんに寄せてもらい色々なお話を聞かせて頂いたのを覚えております。

その折、お寺の外にありますご住職が書かれた伝道文を夫が見まして「あれはなんと書いているのか？」と私に聞きました。

その時の言葉は、

‘何故私に才能がないんだろう’
‘まだみつかってないのよ’

というものでした。

その言葉に（少し大げさに聞こえるかもしれませんが）夫はとても癒され、生きていく光を見ることができました。

それからは定期的に、仕事（新居浜）に行く時、光明寺さんの前を通り、新しい伝道文をカメラで撮ってきては私に訳すように頼んでいました。

その頃の私達の状況を少しだけ話しさせていただけたらと思います。

夫（ナイジェル）はロンドンにあるデザイン会社でグラフィックデザイナーとして働いていたのですが、リストラに遭い、その後何ヶ月も就職活動を続けたにもかかわらず彼の才能を使ってできる仕事を見つけることが出来ませんでした。

その頃、私達の娘インディアは2歳になった頃でした。

以前から、私の両親（特にアルツハイマーの症状が進んで行く母）にインディアと時間を過ごしてもらいたいと願っていた私は日本に帰ることをナイジェルに話したのです。

イギリスで仕事が見つかっていなかったこと、そして以前から日本に強い関心を持っていた主人は快く承知してくれ、私達の日本での生活が始まりました。

まずは東京でデザイナーの仕事を探しましたが、日本も丁度その頃は不景気だったこと、そして主人は日本語が話せなかったことなどの理由で仕事は見つからず、親子で西条に住み、彼は英語教師をしていてくれました。

20年間デザイナーとしてグラフィックデザインに情熱を持って働いていた彼にとってそれは辛いことでした。「僕には才能がなかったのだ」と絶望していた時、あの言葉に出会ったのです。

あの言葉を胸に、それから何年かを日本で過ごした主人は、今イギリスのマンチェスターメトロポリタン大学でグラフィックデザインを教えさせてもらい、グラフィックデザインだけではなく、彼の持つ才能そして経験全てを十分に発揮出来る職場で、彼を認めてくれている人々と仕事出来る事に感謝の日々を送っております……

掲示伝道は不特定多数の人を対象にしますから、同じ言葉でも人によってそれぞれ受け取り方が違いますが、このように、たまたま掲示中の言葉が、一人の人の人生に大きな影響を与えるということがあるのです。

ナイジェルはこうして、自らの人生に希望と癒しを与えてくれた言葉に、たまたま出遭えたのですが、思えば、この言葉に出遭うまでには色んな出来事がありました。

イギリスでリストラにあったこと、日本に来たこと、東京で仕事が見つからなかったこと、そのことで西条に来たこと等々。

その出来事の一つ一つが、この言葉に出遭うためになくはない大事なご縁だったのです。

一つの出遭いの背後には、このように人知を超えた遠い遠い過去からの数限りないご縁が働いているのです。

そうして、そのご縁を喜んで生きていまいしょうと教えるのが仏教なのです。

親鸞聖人はお念仏のみ教えに出遭えた喜びを、次のように仰っておられます。

たまたま行信を獲ば

遠く宿縁を慶べ

(意識「たまたま偶然にも、お念仏のみ教えに出遭え、それを喜ぶ身にさせて頂いたならば、それは我が思いを超えた遠い遠いはるかな昔からのご縁があったのだと心から慶ぶべきです」)

実に見事に念仏者の人生観を言い表したお言葉です。

メールを頂いてすでに6年が経ちますが、おそらくナイジェルは、仏教という東洋の思想を忘れることなく、今もグラフィックデザインの仕事に勤しんでいることだと思います。

平成22年5月 「光明寺だより67号」より